

放射能と放射線

にしながら、セシウムによる影響がどれほどになるのか検討するのが妥当だろうと思います。セシウムを摂取した場合、体内での量が半分になる日数は約100日です。また、セシウムは体のどこかに集まるという性質を持たないと言われており、ヨウ素より体への影響が少ないとされています。最近になって、ヘキサシアノ鉄(II)酸鉄(III)という物質が放射性セシウムを体内から除去する効果があることが報告され、日本でも昨年よりラディオガルダーゼという商品名で販売が開始されて

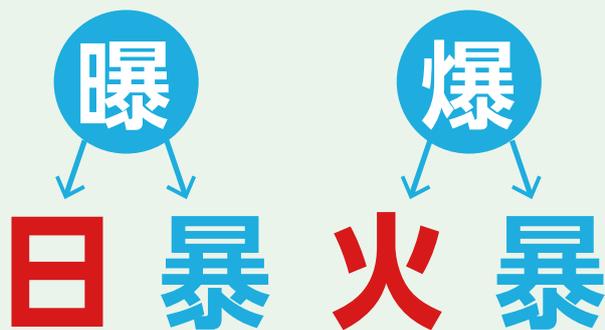
います(医師の処方箋が必要)。必要と判断された方は医師に相談するのがいいでしょう。ただし決してセシウムだけが内部被曝の原因ではないこともご理解ください。筆者といたしましては、安全とも危険とも言うつもりはありません。放射線防護においては、恐がり過ぎるのも良くないし、あなどってもいけません。皆さんご自身が、状況を正しく把握し、可能な限り被曝を避ける努力をすれば、今の生活を継続することは可能であろうと考えております。

3 健康への影響

最後に、放射線被曝による私たちの健康への影響について少しお話したいと思います。放射線障害は、やけど・脱毛などの急性障害や白内障などの晩発障害が知られていますが、今回の事故において、一般の方が考慮すべきなのは主に発がんリスクです。今回のセシウムからの被曝による発がんリスクについて、年間で数mSv以下であればほとんど影響はないだろうと言われています。現在の状況は、福島県のごく一部を除くと、ほとんどの場所で年間被曝量が数mSv以下であると言われています。この程度の被曝では発がんリスクが有意に上昇するかどうかの証拠が今のところありません。広島の実験の追跡調査から1Sv(1,000mSv)程度被曝した場合は数パーセント確率が上がるという報告があります。また、1mSvの被曝で20,000人に1人の割合で

がんが発生するという報告もあります。これは、どんなに少ない被曝でもがんになる可能性があるという仮説のもとでの計算結果です。しかし、実際にそれが観測されたという報告はありません。今回の被曝により、がんになる確率が上がるかどうか、おそらく20-30年後に答えが出るでしょう。確率論で言えば1万人当たりで何人増えたかどうかという議論になりますが、私たち個人の立場ではがんになれば100%だし、ならなければ0%です。すでに3人に1人はがんで亡くなっているのが今の日本の現実です。がんという病気は早く発見して治療すればかなりの確率で完治します。これからはますます、自己による健康管理と早期発見のためのがん検診の意義が高くなっていくのではないかと思います。

コラム. 放射線の被曝と爆弾の被曝



[被曝:放射線にさらされること]

[被爆:爆撃を受けること]

放射線の被曝の曝は“にちへん”です。一方、爆弾の被曝は“ひへん”です。広島の実験の追跡調査から1Sv(1,000mSv)程度被曝した場合は数パーセント確率が上がるという報告があります。また、1mSvの被曝で20,000人に1人の割合で